

京都アカデミアウィーク 2022

定員：会場/50名、オンライン/最大250名 対象：一般

※プログラムについては一部変更の可能性があります。
最新情報はホームページでご確認下さい。
<http://www.kyoto-af.jp>



セミナー

14:30~16:00

空間人類学の視点からコミュニティのコモンズを考える

主催：京都精華大学



ウスビ・サコ
京都精華大学
人間環境デザインプログラム 教授
全学研究機構 機構長

コミュニティとは、人間の共同体であり、その構成員の帰属意識、共有・共用するなかで重要である。しかし、私たちのコミュニティは有機的なものであり、崩壊しても、別のかたちで自己再生できる力があると考えられます。そこで、問題になるのは、新たにできるコミュニティの「活動の場」「活動の方法」つまり「コモンズ」だと思います。近年、社会の様々な変化を見ると、都市部、農村部を問わず、個人が基本単位になっており、またその個人にあらゆる帰属の選択肢があります。それらのダイナミズムを理解することが、今後地域づくり、コミュニティの「コモンズ」を考える上で不可欠でしょう。本セミナーでは、空間が持つ社会的役割を、「人間」と「環境」という大きな枠組みからもう一度問い直し、「空間人類学」の視点からコミュニティのコモンズをみんなと一緒に考えたいと思います。

10/17

Monday

14:30~16:00

知ってるつもり緊急地震速報

主催：京都大学



山田 真澄
京都大学
防災研究所 助教

テレビや携帯電話で受け取る緊急地震速報、聞いたことはあるけれど、その仕組みや精度はご存知でしょうか。緊急地震速報は、地震で揺れる直前に知らせてくれる有益な情報ですが、精度や猶予時間に限界もあります。また、その限界に立ち向かうべく、日々気象庁や研究者が努力を重ねています。今回は、そんな知られざる緊急地震速報の現状と今後の進化を、深く掘り下げてお話しします。

10/18

Tuesday

14:30~16:00

京都東山から発信される新たなデータサイエンス教育

主催：京都女子大学



林 邦好
京都女子大学
宗教・文化研究所 准教授
データサイエンス研究所 兼担研究員/データサイエンス学部(認可申請中) 就任予定

京都東山には、有名寺社、名勝、国宝、重要文化財が数多く、京都の中でも独特な情緒を放っています。京都東山に位置する京都女子大学では、東山の地で育んできたこれまでの伝統を踏襲しつつ、近年社会の中で注目されているデータサイエンスに関わる教育を展開しています。本講義では、社会のイシューに対して価値創造を行うデータサイエンティストたちがこの東山の地で何を感じ、吸収し、世界の情勢と重ねながら教育を行っているかについて、学び直しの機会を提供するリカレント教育を例に取り上げお話しします。

10/19

Wednesday

14:30~16:00

空間を越えた身体接触を可能にするロボットハンドの開発

主催：京都工芸繊維大学



田中 一晶
京都工芸繊維大学
情報工学・人間科学系 准教授

ビデオ通話やVRゴーグルなど、別の空間にいる人やキャラクタとの対面インタラクションを可能にする技術開発が盛んに行われている。その1つとして身体接触を再現する技術が挙げられる。それらは、相手と接触したことを振動や空気圧等の触覚刺激で提示するものがほとんどである。これに対し、我々は身体接触の感覚を他の触覚刺激に変換するのではなくリアルな感覚を提示するため、人の手の触感を再現するロボットハンドを開発している。手を用いた身体接触は初対面での握手から恋人繋ぎまで、親しみの度合に応じて様々な形で行われる。本発表では、そのような多様な手の動きを再現するための技術や、開発したロボットハンドを用いた対話インタフェースについて紹介する。

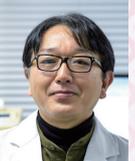
10/20

Thursday

14:30~16:00

白金が抗がん剤に？—抗がん剤誕生の歴史から最新の治療薬まで—

主催：同志社女子大学



根木 滋
同志社女子大学
薬学部医療薬学科 准教授

現在、日本人の2人に1人ががんに罹患する時代となり、がん対策は医療界全体で取り組むべき重要な課題となっています。今回の講演テーマは、「抗がん剤の歴史から最先端のがん治療へ」です。具体的には、戦時中の毒ガス開発から抗がん剤が誕生したエピソード、貴金属である白金を含む抗がん剤の登場、がんを狙い撃ちする分子標的薬の開発、免疫チェックポイント阻害剤や光免疫療法など日本人が開発を主導した最先端治療法など、抗がん剤の開発の歴史を辿ります。

10/21

Friday

18:30~20:00

三條瀬戸物屋町の裏庭からみる桃山時代京都の工芸

主催：京都市立芸術大学



畑中 英二
京都市立芸術大学
美術学部 総合芸術学科 教授

豊臣秀吉による京都の改造によって東日本と京都を結ぶ三條通りには大きな商家が立ち並び、「瀬戸物屋町」という同業者町が形成されていました。その裏庭にあたることを発掘したところ、大量の桃山時代の陶器が出土しました。それらの多くは使用された痕跡がなく、各地の窯場から仕入れたものの何らかの理由で廃棄したものであることがわかりました。今回はそれらの陶器に残された痕跡から、桃山時代の三條瀬戸物屋町での商売の様子、そして京都の工芸の特質について考えることにします。

18:30~20:00

金融の力で支える持続可能な社会 ~SDGsとESG投資~

主催：日本証券業協会〈ご協賛企業・団体様枠〉



加藤 康之
京都先端科学大学ビジネススクール 教授
京都大学経営管理大学院 客員教授

2015年に国連で採択された「SDGs」。2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す世界共通の目標です。期限まで残り10年を切った今、目標の達成に向けて、さらに取組みを加速させていくことが求められており、その中で金融の力が注目を集めています。本セミナーでは、特に金融の世界で注目されている「ESG投資」を取り上げ、SDGsとの関係や持続可能な社会のために金融を通じて何が出来るかを考えます。

18:30~20:00

KYOTO Traditional Crafts ~京の伝統工芸~

主催：京都外国語大学



村山 弘太郎
京都外国語大学
国際貢献学部 グローバル観光学科 准教授(副学科長)

「京都」という言葉で、なにを想像しますか？神社仏閣、舞妓や抹茶、いわゆる京都らしいと思われるようなコト・モノを思い浮かべられることでしょう。これに加え、「伝統産業・伝統工芸」があると思います。そこには、「着物」や「西陣織」「友禅」「清水焼」などを連想することと思います。「伝統産業・伝統工芸」も、京都を象徴するキーワードで、重要な構成要素の一つです。本講座では、歴史的背景を読み解きながら、「伝統産業・伝統工芸」の「いま」について紹介、さらには未来を考えます。

18:30~20:00

認知症とその症状の成り立ちから考える支援

主催：京都光華女子大学/短期大学部



上田 敬太
京都光華女子大学
健康科学部 医療福祉学科 言語聴覚専攻 教授/光華の忘れ・フレイルクリニック 院長/
京都大学医学部附属病院長 非常勤講師/京都市高次脳機能障害支援センター 嘱託医師

認知症は、大きく分けて脳梗塞や脳内出血後に生じる脳血管性認知症と、アルツハイマー病を代表とする変性疾患に分けられる。変性疾患は、脳の中に異常な物質がたまることにより神経細胞が障害され、脳が萎縮する疾患で、三大認知症としてアルツハイマー病、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症が挙げられる。今回のお話の中では、主にこの三大認知症の症状についてお話しし、さらに認知症の人が呈する様々な精神・行動症状、すなわち周辺症状と呼ばれる症状について、患者さんの心の動きを踏まえた理解、それに基づいた対処法などについてお話しする。

18:30~20:00

『京町家に学ぶこれからの住まい』—アクションリサーチを超えた居住実験—

主催：京都美術工芸大学



生川 慶一郎
京都美術工芸大学
建築学部 教授

京都のまちの歴史と文化の象徴といえる京町家。その気密性、断熱性、耐震性など現在の住宅性能には遠く及ばない住まいだが、なぜか我々を魅了してやまない。コロナ禍を経験して住まいに対する価値観が大きく変化しつつある今、改めて生活文化の集大成といえる京町家の現代的価値を問い直すことが求められている。24時間365日、生活行動とその温熱環境を記録・計測した居住実験を通じて、京町家に継承される住みこなしとそ先のつながる住みこたえを検証し、これからの住まいのあり方について考える機会としたい。